

ブナ森にマス獲りの径を辿る

## 白神山地 追良瀬川～津梅川

斎藤

【日時】2009年9月5日(土)～7(月)

【メンバー】斎藤L、吉岡

追良瀬川の源流部、ウズラ石沢を分けたさらに上流に、マス止めの淵がある。マスとはサクラマスのこと、昭和32年に追良瀬川堰堤ができる前まで、秋になると遡上してきたサクラマスで淵があふれかえっていたそうだ。

東の西目屋からは、赤石川を横断し五郎三郎沢から。西の大間越からは、津梅川から峠を越えて黒滝沢から。南の八森からは真瀬川から峠を越えて逆川から。それぞれハレの日の魚、サクラマスを求めて人々が行きかった。

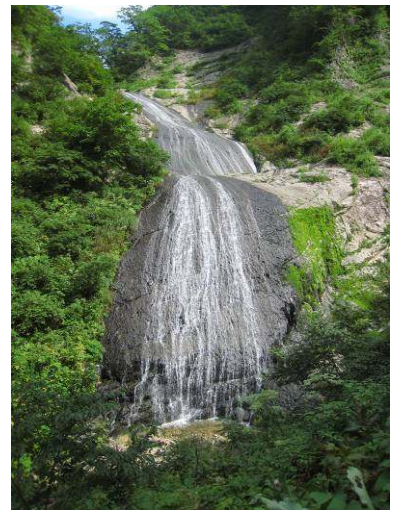
今となっては海と川が堰堤によって遮断され、サクラマスの姿を見ることはできないが、往時の情景を思い浮かべながら消えつつある杣径を辿る旅となった。

### ■9/5(土)：晴れ

未明まで降っていた雨も、夜行バスが秋田に到着する頃にはすっかりあがり、青空が覗いている。奥羽本線、五能線と列車を乗り継ぎ、無人の陸奥岩崎駅に降り立った。程なく、予約しておいた岩崎タクシーが現れ、白神ラインを内陸部に向けて走り出す。途中、白神岳や向白神岳を見渡すことのできる峠や美人になるという湧き水で一時停車しながら追良瀬大橋に到着した。

追良瀬川堰堤は、左岸にあるコンクリートの通路の上を乗り越える。バックウォータを進むと右岸に通水口が現れる。赤石川、追良瀬川、笹内川はこういった堰堤/ダムと地下水路で結ばれており、最終的には十二湖の大池での水力発電に使われているそうだ。本来、南北に流れていて海でしか交わることのない川が人工的に東西に流れを変え繋がっている姿に多少の違和感を覚える。

夏が終わり、少し柔らかくなった午後の陽射しのもと、いよいよ追良瀬川の流れに足を踏み入れる。流れは穏やかなものの、川幅一杯に水を湛えていて、膝下を水に浸しながらの遡行だ。コエゾゼミの鳴き声が聞こえる一方、川面に張り出したカエデの枝先は黄色く色づき始め、夏から秋へ移り変わろうとしている季節





の流れを感じる。平坦で広々とした流れ、頭上の広々とした空が、のんびりとした気持ちにさせてくれる。

一ノ沢を過ぎて間もなく淵が現れる。右岸から水線沿いに、へつりながら進んでいけるのだが、指先しかかからないホールドに体重を預けなければならない状況に吉岡さんが四苦八苦。丁度そこに、上流から3人組の巡視員の表れ、左岸の巻き道を使いなさいのジェスチャー。セミになってしまった吉岡さんの写真を撮ってから淵の入り口まで戻って巻き道へ。巡視員の方の話では、この先、追良瀬川に遡行者はいないとのこと。世界遺産を貸し切り利用できる幸運に感謝。

この日は20mの滝で合わさる五郎三郎沢まで。このあたりの河床は、真っ赤なラジオラリアが露出しており綺麗だ。周囲にはムカゴをつけたミズが沢山生えていた。  
(斎藤健)

### ◎ブナ森の感想1日目

穏やかで開放的な追良瀬をのんびり快適に遡行した。開放的な気分で渡渉していたら、首まで浸かる深みにはまってしまい、水流の怖さを初端から再確認するハメになった。沢沿いにはカエデやヤナギ、少し標高が高くなるとブナが見える。所々始まっている紅葉に、白神に来たという実感が湧き、斎藤さんに聞こえない程度の声量で『千と千尋の神隠し』のテーマソングを歌いながらの仕合せな遡行だった。心残りは、巡視員さん達と遭遇した一ノ沢付近のゴルジュを突破出来なかったこと。初日夕飯は王道のカレー！利香さんご推薦のスパイスセットを購入し、間違いのない料理をした。とりあえず、レベル1の料理は出来たと思う。(吉岡)

### ■9/6(日)：晴れ

朝、ツェルトから滴る結露で目を覚ます。今日も晴れ。イワナが走る川の中を進んで行く。滝ノ沢あたりまでは、グリーントフの淡い黄緑色と、ラジオラリアの赤色がかわるがわるに現れて目を楽しませてくれる。ヤマカガシの抜け殻を拾い上げたり、黒セキレイを発見したりして進んでいると、右岸に人面滝が合わさる。モアイ像の兄弟といったところか。ウズラ石沢出合の淵を越え、しばらく進むと、マス止めの淵が現れた。残念ながら、今回この淵では、イワナの姿すら見かけることができなかった。人為的なものなのだろうか。源流で南向きの流れを持つという逆川を左手に分けると、水量がぐっと減り、小川サイズの流れに。このあたりから、また、イワナの走る姿が目を楽しませてくれる。今日ものんびり遡行のため、お昼付近に2時間ほどゆっくり休止。

再び出発して間もなく、左から白滝沢が合わさってきて出合からも、滝の一部が確認できる。幻の滝を発見したことに、ちょっと興奮しながら近づいていく。日暮しの滝は、流れに対して直角に合わさってきていて、下からでは全貌を確認することができない。交代で対岸の尾根に上がり、滝の鑑賞と記念撮影を行う。

出合に戻り、黒滝沢を遡行。淵を抱えた小滝が連続して、その小滝をイワナが登ろうとしてライズ！黒滝10mは、滝の手前の右岸に入るルンゼから巻き、最後は吉岡さんが発見した踏み跡を辿り懸垂なしで河床に復帰することができた。

この日は、Co885のピークに通じる沢につけられたマス獲りの径の上に幕。(斎藤健)

### ◎ブナ森の感想2日目

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>



2日目も穏やかで開放的な廻りは変わらず。幻の滝とされる『白滝（日暮らしの滝）』は、沢の二股からもはっきり見え、感動のご対面を果たした。2日目も変わらず、頭の中は『千と千尋の神隠し』のテーマソング。夕飯は調理に四苦八苦。2日目の疲労のピークは調理時に来た。（吉岡）

### ■9/7(月)：曇り

寝坊して遅めのスタート。今晚から雨の予報があるため、今日中に下山できればベストだ。昨夜、幕を張った道を辿り進んで行く。ブナの木の洞に熊穴を発見したりしながら、途切れ途切れの踏み跡を追って稜線に到着。明瞭な道が現れ、これがマス獲りの径と確信。

この後、例によって道間違えを。稜線を越え、下降しようとしたところ、下降する方角が地形図と合わない。稜線は越えたしということもあり、途中で西向きの沢が合わさってくるだろうとの仮定のもと、しばらく下降してみた。ところが、足元に見えてきたのは北向きの沢！なんと、もう一度、追良瀬川に戻って来てしまった(^^)気を取り直して、マス獲りの径を目指してもう一度登りなおす。再び明瞭な道が現れ、今度は、道の方向を外さずに進むと、笹原が現れ、無事に西向きに降って行くことができた。ウ～ム。要らないトレーニングを積んでしまった。

伏流となった沢形を標高差440m下降すると、ようやく湧水となってカンカケ沢が現れた。とても透き通った水流で、とても美味しい水だった。

カンカケ沢は、沢の上をブナの森が覆いトンネルのようになっている。その中を多少の巻きを交えながら降って行くと、やがて、小又沢、大又沢が合わさってきて開けた河原状になる。堰堤が現れその先は、立派な林道。丁度、帰るところだという釣り人に拾ってもらい、秋田白神のハタハタ館まで送ってもらった。さらに、ローカルバス、電車を乗り継ぎ、無事、東京への帰路につくことができた。（斎藤健）

### ◎ブナ森の感想3日目

津梅川カンカケ沢に下降しているつもりが、追良瀬川に戻ってしまった痛恨の読図ミス。多くある踏み跡に惑わされず、コンパスで方向を確認しつつ進む重要性を再認識した。カンカケ沢の水はまるやかでスッキリした味で、とっても美味でした！（吉岡）

【写真】上：ツツミ沢付近、中：日暮らしの滝、下：マス獲りの道（稜線部）

### 【行程】

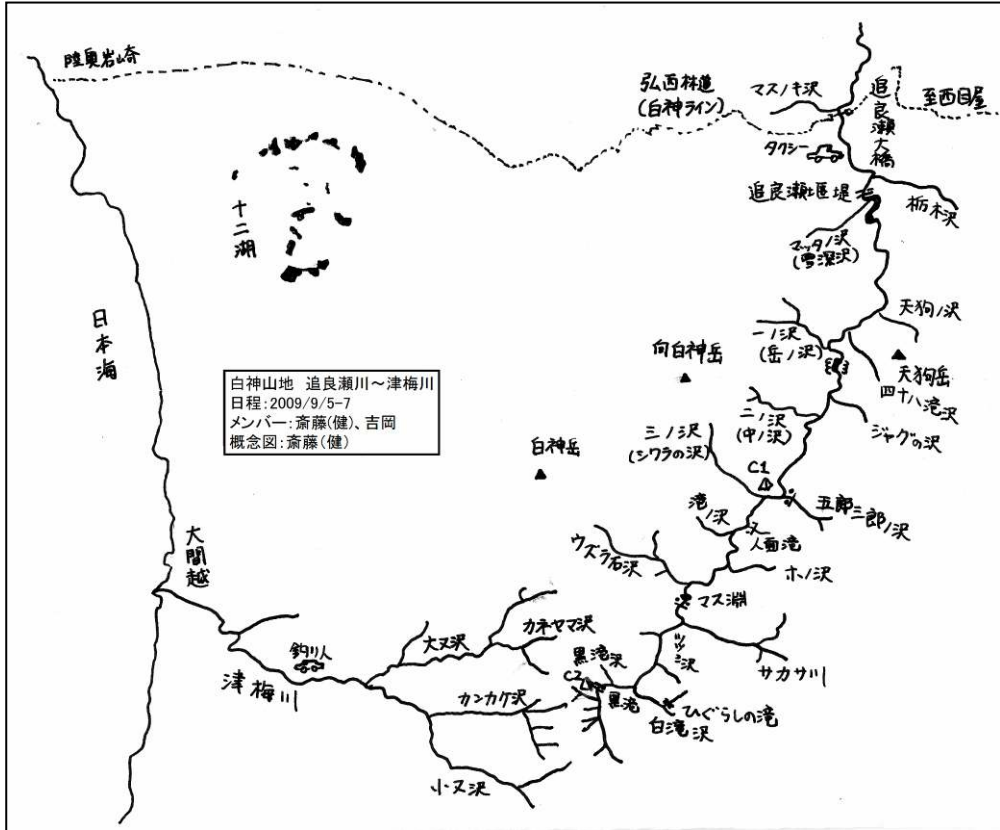
9/5(土) 追良瀬堰堤(11:17)～一ノ沢(13:27)～二ノ沢(14:39)～五郎三郎沢(16:27)C1

9/6(日) C1(7:15)～ウズラ石沢(9:33)～日暮らしの滝(13:33)～黒滝(15:34)～C2(15:48)

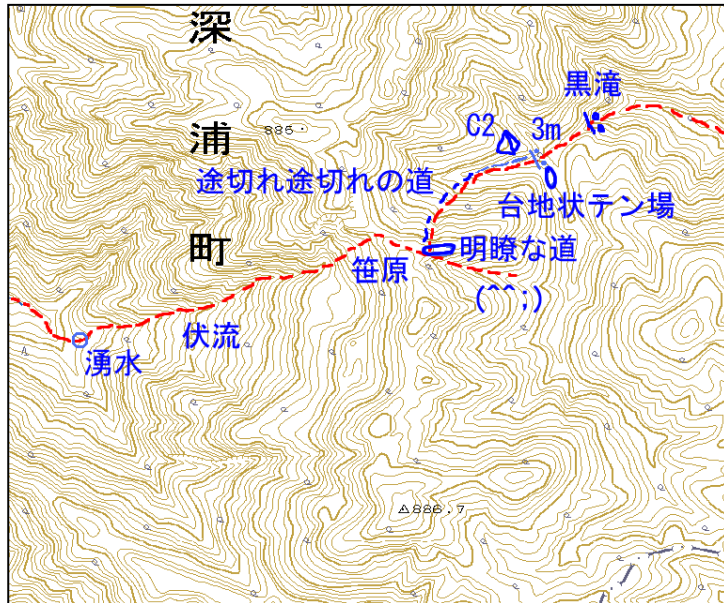
9/7(月) C2(8:05)～稜線(9:30/10:00)～黒滝沢(10:35)～稜線(11:30)～カンカケ沢湧水(13:00)～小又沢(14:35)～大又沢(15:27)～堰堤(15:35)～釣り人(15:50)

【グレード】2級

【地形図】白神岳、ニッ森、大間越



概念図



マス獲りの峠道